

実地医療に役立つ

インフルエンザトピックス

【第16回】

薬局サーベイランスは、全国1万件の調剤薬局から集めた処方箋情報に基づき、特定の薬剤の処方状況を翌日には集計して、異常な動きがあるかどうかを迅速に判断できるシステムである。特に適応疾患が1つしかない抗インフルエンザウイルス薬については、正確かつリアルタイムに患者数を推計するためのデータとして、その有用性が高く評価されている。インフルエンザの薬局サーベイランスにおいて、データ解析と患者動向のコメントを担当されている安井良則先生に、薬局サーベイランスの特徴などについてお話を伺った。



安井良則

大阪府済生会中津病院
臨床教育部長・感染管理室長

インフルエンザの薬局サーベイランス

全国1万の拠点から翌日には
処方のデータが集計される

——大阪府済生会中津病院での日常業務の概略を教えてください。

安井 大阪府済生会中津病院は1916年に開院し、ちょうど今年が100周年に当たります。歴史のある病院であり、実は私が生まれたのもこの済生会中津病院でした。巡り巡って生まれた病院に戻って来たので、出生時にお世話になった方々に少しでも恩返しができればよいと考えています。当院に臨床教育部の部長として赴任してきたのは、2013年4月です。初期臨床研修医の教育研修の責任者として、研修医の採用や、研修終了などにかかわる業務を行っています。

また臨床教育にかかわる業務のほかに、専門である感染管理にも携わっています。国立感染症研究所に在籍していた当時は、市中感染が主な研究対象でしたが、それ以前には保健所にいた経験があり、院内感染などの臨床の現場に戻ってきたという実感も持っています。

当院は、感染防止対策加算1をとっている病院です。また院内感染対策だけでなく、同じ建物内の乳児院や近

隣の障害児施設、老健施設、特別養護老人ホームなどの感染対策も、すべて担当しています。乳児院でRSウイルス感染症が増えてきた、障害児施設で溶連菌感染症のアウトブレイクが起こった、高齢者施設でインフルエンザが発生したなど、病院以外の感染防止対策も業務として行っています。

薬局サーベイランスに関しては、データ解析の一部を手伝っており、また11月から4月までのインフルエン



施設外観

SAMPLE

インフルエンザ Vol.18 No.1(2017-1) 17 (17)

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.